

## 総説

今回の特別展「東播磨の文化財く加古の流れの中で」では、東播磨南部地域である加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の中にある市町の指定文化財を中心に展覧している。同様の展覧会は、平成七年（一九九五）に開催した「いなみ野の歴史と文化財」展があり、一二年ぶりに、まとまって指定文化財を公開することとなった。この間に、加古川市だけでも、重要文化財一件、県指定文化財七件、市指定文化財二〇件が増え、また、新たに国登録文化財七箇所が登録された。そして、現在、加古川市域には、国指定二三件（国宝二件を含む）、県指定三五件、市指定五一件、合わせて一〇九件の指定文化財があり、保護されている。

地域の文化財は、地域の歴史と文化の正しい理解のため欠くことのできないものであり、かつ、将来の文化向上発展の基礎をなすものである。そして、未来のために、その保存を適切に行わなければならない。そのためには、まず、この地域に、どのような文化財があるかということをし、正しく知っておく必要がある。

鶴林寺をはじめとする寺社が所蔵する文化財は、それぞれの所蔵者により公開される機会もある。しかし、指定を受けている文化財でさえ、日頃、見る機会が少なく、その存在をあまり知られていないものが多い。今後、本展のような展覧会だけでなく、印刷物や説明板などを使って、地域の皆様といっしょになって、文化財についての理解を深めていただくことが必要である。そのことが、文化財保護意識を高め、心豊かな生活にも結びついていくものと確信している。

本展では、「寺社の美術工芸」、「信仰と伝説」、「古文書が語るもの」、「東播磨の考古資料」と内容を大別してこの地域の文化財を展示している。

「寺社の美術工芸」として、鶴林寺をはじめ、教信寺や報恩寺が所蔵する仏像、仏画、経典を展示している。これらの多くは、鎌倉時代から室町時代のもので、中世の寺社とそれを支えた地域の有力者の姿をうかがい知ることのできるものである。また、江戸時代のものとして、神吉八幡神社、国安天満神社、阿閉神社に伝わる三巻の祭祀図絵巻すべてを、はじめて一堂に展示している。

「信仰と伝説」では、鶴林寺の三幅画の聖徳太子絵伝と、時光寺の時光上人絵伝を展示している。時光上人絵伝は、二見から飾磨までの播磨灘東部沿岸部の景観を詳しく描いた名所絵として見ることもでき、興味深いものである。また、泊神社本社棟札をはじめ、泊神社と米田天神社を復興した宮本伊織奉納の三十六歌仙図絵馬も展示している。

「古文書が語るもの」としては、報恩寺周辺の中世のようすを物語る播州印南郡印南山報恩寺旧記覚や報恩寺奉加帳全六帖をはじめ公開している。また、近世史料の中から、村絵図では、浜宮、鶴林寺、尾上神社絵図と新井古宮組絵図を、さらに、庄屋日記として御月見日記と大歳家日記帳を展示している。

「東播磨の考古資料」では、古墳時代前期の竜山5号墳出土品、古墳時代中期の鍛造具を含むカンス塚古墳出土品、そして、近代の播州葡萄園出土品などを展示している。いずれも、それぞれの地域を代表する出土品である。

その他、時光寺地獄極楽図、教信寺六道図絵馬、そして、近年に確認された如意寺十王像及び俱生神像など、近世の庶民信仰の資料も紹介している。

また、本展の準備の中で、旧泊神社拜殿開口を確認できたことをはじめ、いくつかの新たな知見があった。新たな資料については、今後、内容を整理したのちに紹介したいと考えている。

本展で紹介している文化財は、近年に指定されたものや、新たに確認されたものを中心であり、一部の文化財にしか過ぎない。古くから発展していたこの地域には、先人が作り伝えてきた優れた文化遺産が、数多く伝わっている。これらの文化財から、この地域の過去を学び、心豊かな未来を創ることに役立ててもらうことを祈念するところである。

皆様には、今後とも、文化財の保護と活用について、御理解と御協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

最後に、本展開催にあたり、御出品及び御協力いただきました皆様へ深く感謝申し上げます。